

令和4年度 国本中央小学校 学校評価書

1 教育目標（目指す児童像含む）

「人間尊重の教育」を基盤とし、豊かな人間性を持ち、意欲をもって主体的に生きていくことができる心身ともに健康でたくましい児童の育成

- ☆ 心豊かで思いやりのある子ども（やさしく）
- ☆ 自ら学ぶ子ども（かしこく）
- ☆ 明るく元気な子ども（たくましく）

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

学校教育目標達成のため、全職員が自らの使命を自覚し、「人間尊重の教育」を基盤とした誰もが安心して学べる活力ある学校づくりを推進する。

学校教育目標達成のためには、教職員が学校経営の方針を理解し、自らの使命を自覚して、児童のよりよい成長のために日々の教育活動にあたることが重要である。その過程において、保護者・地域住民と適切に連携していくことにより、教育の目的である、児童の望ましい人格が形成されていく。したがって、本校は、教職員の資質の向上により、児童が安心して生き生きと学ぶことができる活力ある学校づくりを推進し、上記の具体目標の達成を目指す。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) 基礎・基本の確実な習得、活用する力の育成、自ら学ぶ意欲の涵養（かしこく）
 - ・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善（はつきり・じっくり・すっきり）
 - ・学力調査等を活用した共通実践（PDCAサイクルの確立）
 - ・学びに向かう力と協働して課題解決に取り組む態度の育成
 - ・教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成（カリキュラム・マネジメントの充実）
 - ・まとめの学習の充実と家庭学習の習慣化
 - ・宮・未来キャリア教育の充実
- (2) 心の教育の充実による自信や自己有用感、規範意識、思いやりの育成（やさしく）
 - ・不登校を生まない指導・支援の充実
 - ・「市及び学校いじめ防止基本方針」に基づいた、いじめを生まない指導の充実
 - ・宮っ子心の教育を核とした人権教育の推進
 - ・自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、生き方についての考えを深める道徳教育の充実
 - ・児童の自信や自己有用感を高め、互いに認め励まし合う態度の育成
 - ・体験活動・読書活動の充実
- (3) 生涯にわたり心身ともに健康で安全な生活を送るための資質・能力の育成（たくましく）
 - ・児童が健康に生活できる心と身体の育成を目的とした元気アップ教育の推進
 - ・運動に親しもうとする態度や能力の育成
 - ・健康を管理する能力の育成
 - ・望ましい食習慣の形成及び食に対する感謝の念の育成
 - ・危険予測・回避能力の育成
- (4) 未来を生き抜くための資質・能力の育成
 - ・情報活用能力を育成する教育の充実（GIGAスクール構想の実現）
 - ・郷土への愛情を育む学習の推進（「宇都宮学」との関連）
 - ・英語教育・国際理解教育の充実
- (5) 教職員の資質向上を目指す取組
 - ・メンター研修をはじめとする実効的な校内研修の実施
 - ・学び続ける教職員をめざした学校風土の確立
 - ・信頼される教職員をめざした研修機会の確保
 - ・教職員評価等を生かしたキャリアステージに応じた人材育成
- (6) 地域とともにある学校づくりの推進
 - ・地域学校協働活動の充実による児童の健全育成
 - ・地域教育資源（人・物・場所）を効果的に活用した体験活動による郷土愛の涵養
- (7) 教員の働き方改革の推進
 - ・学校行事等の精選、校務分掌の見直し、教職員の意識改革の実現

・教職員の健康安全管理の徹底・教職員の健康安全管理の徹底

〔国本地域学校園教育ビジョン〕

「自ら学び 心豊かで 元気な国本っ子」 ～地域とともにある学校をめざして～

4 教育課程編成の方針

- (1) 保護者や地域に信頼される学校教育の展開
- (2) 確かな学力と健康・体力を育む教育の充実
- (3) 本校の特色ある活動を生かした豊かな心と社会性を育む教育の推進

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【学校運営】

○豊かな環境と地域教育力を活用した誰もが安心して学べる活力ある学校づくりの推進

- ・安全な学校づくり
- ・児童が安心して楽しく過ごせる学校づくり
- ・学力の向上を目指す学校づくり

【学習指導】

○自他を大切にし、共に学ぶ児童の育成（年間活動テーマ「お互いに 尊重し合う 国央小」）

【児童・生徒指導】

○学業指導による学びに向かう集団の育成

- ・すべての児童にとって居がいのある温かい雰囲気学の学級経営の実践

【健康（体力・保健・食育・安全）】

○自分の体に関心をもち、進んで健康・体力の向上に努める児童の育成

- ・教科体育・保健指導の充実と運動の日常化

【教職員の業務内容・勤務時間の適正化】

- ・重点目標の焦点化による、業務内容の精選・統合
- ・会議・研修内容の見直しと業務の効率化による勤務時間の適正化

6 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
	A1 児童は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、授業中、話をしっかりと聞いたり、発表したりするなど、進んで学習に取り組んでいる。」 ⇒児童の肯定的回答85%以上	① 聞き方の指導では、自分の考えをもつ時間を確保した上で、自分や友達の考えを比べながら聞けるようにする。 ② 話し方の指導では相手に伝わりやすい話し方の型を指導し、相手意識をもった話し方ができるようにする。 ③ 宇都宮モデルを実践しつつ、自分の言葉で振り返り活動を充実させ、より主体的に学習に取り組めるようにする。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答は89%であり、目標を上回った。 【次年度の方針】 ① 学校で統一した「聞くときの約束」を提示することで、話をよく聞くと考えが深まるという経験を積ませていく。 ② 宇都宮モデルを実践しつつ、自分の言葉で振り返り活動を充実させ、より主体的に学習に取り組めるようにする。 ③ 声のもののさしの掲示資料を学校共通で年度当初に指導を行う。

目 指 す 児 童 の 姿	A 2 児童は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上	① 学年に応じて、人権の内容に関する知識・技能・態度などを身に付けられるよう全職員で研究を行うとともに、児童に分かりやすいスローガン等で啓発を図るなどして、思いやりやルールを守る心を育てる。 ② キャリアパスポート等に保護者のコメント欄を設けるなどし、学校の取組の発信を行う。 ③ 緑化活動を引き続き充実させる。スタンダードダイアリーの「心を育てる50の言葉」を授業や帰りの会で活用し、先人の生き方等に触れ、生き方を振り返る手立てとする。	B 【達成状況】 ・児童の肯定的回答は92%であり、目標を上回った。 【次年度の方針】 ① 学年に応じて、人権の内容に関する知識・技能・態度などを身に付けられるよう全職員で研究を行うとともに、児童に分かりやすいスローガン等で啓発を図るなどして、思いやりやルールを守る心を育てる。 ② キャリアパスポート等に保護者のコメント欄を設けるなどし、学校の取組の発信を行う。 ③ 心ばかり運動や人権週間の取組を充実させ、児童同士の互いを尊重しあう心を育む活動を継続していく。
	A 3 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。」 ⇒教職員・児童の肯定的回答 85%以上	① 「学習のきまり」、「生活のきまり」、「月別の重点目標」を基に週の生活目標を設定し、基本的な生活習慣や学習習慣の定着を図る。 ② 時間を守って行動できるよう、授業開始時にチャイムを鳴らすとともに、声掛けを実施する。 ③ 水道の使い方、廊下の歩き方について、生活当番の巡視の際など、全職員で重点的に指導する。	B 【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は92%、児童の肯定的回答は87%で、共に目標を上回った。 【次年度の方針】 ① 「学習のきまり」、「生活のきまり」、「月別の重点目標」を基に週の生活目標を設定し、基本的な生活習慣や学習習慣の定着を図る。 ② 時間を守って行動できるよう、授業開始時にチャイムを鳴らすとともに、声掛けを実施する。 ③ 水道の使い方、廊下の歩き方について、生活当番の巡視の際など、全職員で重点的に指導する。
	A 4 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、時と場に応じたあいさつをしている。」 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上	① 率先してあいさつができるように、児童会を中心としたあいさつ運動を継続して行い、規範意識を高める。家庭・地域への啓発も意図的に行う。 ② 教員の率先垂範により、自然にあいさつをしたり返したりする習慣を身に付けさせる。	A 【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は80%で、目標を下回った。 【次年度の方針】 ① 率先してあいさつができるように、児童会を中心としたあいさつ運動を継続して行い、規範意識を高める。家庭・地域への啓発も意図的に行う。 ② 教員の率先垂範により、自然にあいさつをしたり返したりする習慣を身に付けさせる。 ③ あいさつ強化週間を設定し、自分のあいさつへの取組を振り返る機会を設け、意識の啓発を図る。
	A 5 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「私は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① キャリアパスポートを活用して、具体的な学期始めの目標設定や学期末の振り返りができるように支援する。 ② 帰りの会で児童同士が互いの良さを認め合える時間を確保し、自己肯定感を高められるようにする。	B 【達成状況】 ・児童の肯定的回答は94%であり、目標を上回った。 【次年度の方針】 ① キャリアパスポートを活用して、具体的な学期始めの目標を設定し、学期末の振り返りを定期的に行う。 ② 帰りの会で児童同士が互いの良さを認め合える時間を確保し、自己肯定感を高められるようにする。

A 6 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、健康や安全に気を付けて生活している。」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 歯みがきの時間の設定や資料・歯みがきカレンダーを配付し、児童や家庭に対して歯みがきの啓発をしていく。 ② 健康診断結果など、保健関係の配付物により家庭への健康意識の啓発を行う。 ③ うがい・手洗いの励行をする。	A 【達成状況】 ・児童の肯定的回答は97%であり、目標を上回った。 【次年度の方針】 ① 歯みがきの時間の設定や資料・歯みがきカレンダーを配付し、児童や家庭に対して歯みがきの啓発をしていく。 ② 健康診断結果など、保健関係の配付物により家庭への健康意識の啓発を行う。 ③ うがい・手洗いの励行をする。 ④ 身だしなみを整えられるように指導をする。
A 7 児童は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。 【数値指標】 全体アンケート「私は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」 ⇒児童の肯定的回答 85%以上	① 資料活用を通して児童のキャリア教育に対する視野を広げる。 ② キャリアパスポートを活用し、学級活動の充実を図る。 ③ みどり活動や緑の少年団の活動と連携し、社会参画への意識を高めていく。	B 【達成状況】 ・児童の肯定的回答は94%であり、目標を上回った。 【次年度の方針】 ① 資料活用を通して児童のキャリア教育に対する視野を広げる。 ② キャリアパスポートを活用し、学級活動の充実を図る。 ③ みどり活動や緑の少年団の活動と連携し、社会参画への意識を高める。
A 8 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、外国語活動の授業やALTとの交流の際に、英語を使ってコミュニケーションしている。」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 外国語科および外国語活動の時間では、ALTと協力して児童に興味をもたせながら児童同士のコミュニケーションを図れるような活動を工夫する。 ② 昼休みに英語の読み聞かせをするなど授業以外でのALTとのコミュニケーションの場面を設定する。	B 【達成状況】 ・児童の肯定的回答は88%であり、目標を上回った。 【次年度の方針】 ① 外国語科および外国語活動の時間では、ALTと協力して児童に興味をもたせながら児童同士のコミュニケーションを図れるような活動を工夫する。 ② 昼休みに英語の読み聞かせをするなど授業以外でのALTとのコミュニケーションの場面を設定する
A 9 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、宇都宮市のよさを知っている。」 ⇒教職員・児童の肯定的回答 80%以上	① 学校行事や地域の行事、また、国本地域や宇都宮市の良さに関連する学習内容を積極的に扱う。その際、事前・事後の指導を充実させ、地域や市の良さを確認できるようにする。 ② お昼の校内放送で、宇都宮市の歴史や良さ、魅力について放送していく。また、地元でとれた食材を紹介し、地域との関わりや地域の良さに気付かせる。 ③ 講師の先生をお迎えし、宇都宮市の良さや魅力についてお話をいただく。	A 【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は80%で目標と同等であったが、児童の肯定的回答は91%で、目標を上回った。 【次年度の方針】 ① 学校行事や地域の行事、また、国本地域や宇都宮市の良さに関連する学習内容を積極的に扱う。その際、事前・事後の指導を充実させ、地域や市の良さを確認できるようにする。 ② お昼の校内放送で、宇都宮市の歴史や良さ、魅力について放送していく。また、地元でとれた食材を紹介し、地域との関わりや地域の良さに気付かせる。 ③ 宇都宮市に関する資料を集め、図書館に「宇都宮コーナー」を設置し、児童に宇都宮のよさを知らせる。

A10 児童は、I C T機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 全体アンケート「児童はパソコンや図書等を学習に活用している。」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① I C T機器の効果的な活用の仕方を工夫する。 ② 学習センターとしての図書館を計画的に活用する。 ③ 児童がI C T機器や図書等を学習に活用している様子を、授業参観やたより等で取り上げたり、授業で作成したものを掲示したりして、学校での取組の様子を保護者へ発信する。	【達成状況】 ・児童の肯定的回答は93%であり、目標を上回った 【次年度の方針】 ① I C T機器の効果的な活用の仕方を工夫し、年間指導計画に位置付ける。 ② 学習センターとしての図書館を計画的に活用する。 ③ 児童がI C T機器や図書等を学習に活用している様子を、授業参観やたより等で取り上げたり、授業で作成したものを掲示したりして、学校での取組の様子を保護者へ発信する。
A11 児童は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は誰に対しても思いやりの心をもって優しく接している。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上	① ころほかほか運動を継続し、他者のよさを見つけられるようにする。 ② 「親切、思いやり」の価値項目を重点指導し、道徳の授業を行っていく。 ③ 日常指導の中で言葉の指導を重視し、他者を思いやるあたたかな言葉を使えるようにする。	【達成状況】 ・児童の肯定的回答は92%であり、目標を上回った。 【次年度の方針】 ① ころほかほか運動を継続し、他者のよさを見つけられるようにする。 ② 「親切、思いやり」の価値項目を重点指導し、道徳の授業を行っていく。 ③ 日常指導の中で言葉の指導を重視し、児童が他者を思いやるあたたかな言葉を使えるように指導する。
A12 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。」 ⇒教職員・児童の肯定的回答 80%以上	①「みどり活動」、「稲作活動」等、「持続可能な社会」と関連のある活動を行う際は、それらの関連について、児童に指導する時間を設ける。 ② 活動の事後指導の場を設定し、児童自身が活動の意義を考えられるようにする。 ③ 日常的に「持続可能な社会」につながる活動を意識できたり、行動できたりする機会を設ける。	【達成状況】 ・児童の肯定的回答は88%で目標を上回ったが、教職員の肯定的回答は71%で、目標を下回った。 【次年度の方針】 ①「みどり活動」、「稲作活動」等、「持続可能な社会」と関連のある活動を行う際は、それらの関連とその意味について、児童の発達段階に応じた指導をする時間を設ける。 ② 活動の事後指導の場を設定し、児童自身が活動の意義や社会的意義を考えられるようにする。 ③ 節電や節水など日常的に「持続可能な社会」につながる活動を意識できたり、行動できたりする機会を設ける。
B1 児童は、家庭学習に進んで取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「家庭学習に進んで取り組んでいる」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 年度始めに、家庭学習の大切さを「家庭学習のすすめ」を読み上げながら児童に伝えたり、常時、家庭学習への意欲を高めるための声掛けをしたりする。 ② スタンダードダイアリーを活用し家庭学習の習慣化を図る。 ③ 学級の懇談会等で家庭学習の意義を伝えとともに家庭学習週間を設定することで保護者の理解と協力をより得られるようにする。	【達成状況】 ・児童の肯定的回答は92%であり、目標を上回った。 【次年度の方針】 ① 「家庭学習のヒント集」を年度始めに配付し、児童の家庭学習への意欲を高める。 ② スタンダードダイアリーを活用し家庭学習の習慣化を図る。 ③ 学級の懇談会等で家庭学習の意義を伝えとともに「学習指導だより」を発行することで保護者の理解と協力をより得られるようにする。 ④ 宿題の質と量を学年主任会の際に、話し合う。

目 指 す 学 校 の 姿	A13 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 全体アンケート「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童等の実態に応じて、適切な支援をしている。」 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上	① 特別な支援を必要とする児童の実態を把握し、関係する教職員や保護者と情報共有をして支援の方向性を示す。 ② 児童に応じた指導方法の工夫を行い、特別な支援を必要とする児童にとっても、分かりやすい授業の展開をする。 ③ 必要に応じて校内支援委員会を開き、個別の支援計画を作成して、かがやきルームやS C、市教育センター、保護者との連携を図っていく。	A 【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は96%であり、目標を上回った。 【次年度の方針】 ① 特別な支援を必要とする児童の実態を把握し、関係する教職員や保護者と情報共有をして支援の方向性を示す。 ② 児童に応じた指導方法の工夫を行い、特別な支援を必要とする児童にとっても、分かりやすい授業の展開をする。 ③ 必要に応じて校内支援委員会を開き、個別の支援計画を作成して、かがやきルームやS C、市教育センター、保護者との連携を図っていくとともに職員会議の時間等に学校全体の教職員間の共通理解を図る場を設ける。
	A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 全体アンケート「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる。」 ⇒児童の肯定的回答 85%以上	① 定期的なアンケート調査や教育相談により、子供の実態把握と、いじめ防止・早期発見に努め、適切な対応をする。 ② 学校だより・学年だより等でアンケート調査や教育相談などの学校での取組を保護者に知らせる。 ③ 道徳の授業公開をする際、いじめ防止を扱った内容を行い、保護者へのいじめ防止活動の周知を強化する。	B 【達成状況】 ・児童の肯定的回答は98%であり、目標を上回った。 【次年度の方針】 ① 定期的なアンケート調査や教育相談により、子供の実態把握と、いじめ防止・早期発見に努め、適切な対応をするとともに、いじめ事案発生の際には、チームで対応し、保護者への連絡を密にし、誠意ある対応を心掛ける。 ② 学校だより・学年だより・児童指導だより等でアンケート調査やいじめ撲滅への具体的な学校での取組を保護者に知らせる。 ③ 道徳の授業公開をする際、いじめ防止を扱った内容を行い、宿題等で家庭でも話し合う機会を設けるなど、保護者へのいじめ防止活動の周知を強化する。
	A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 全体アンケート「教職員は、不登校を生まないよう、一人一人への児童を大切に、児童がともに認め励まし合う学級経営を行っている。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 90%以上	① 児童や保護者に、積極的にかかわり、普段からの信頼関係づくりに努める。 ② 養護教諭、S C、市教育センターと積極的に連携を図り、アドバイス等を指導に活かしていく。欠席状況調査票も活用し、月5日以上の欠席累計だけでなく、トータルの欠席累計の状況や遅刻・早退の動きなどを分析し、潜在的な不登校児の早期発見と対応に努める。	B 【達成状況】 ・児童の肯定的回答は95%、教職員の肯定的回答は100%で、共に目標を上回った。 【次年度の方針】 ① 児童や保護者に、積極的にかかわり、配慮が必要な児童や、その保護者には、連絡を密にし、普段からの信頼関係づくりに努める。 ② 養護教諭、S C、市教育センターと積極的に連携を図り、アドバイス等を指導に活かしていく。欠席累計の状況や遅刻・早退の動きなどを把握し、潜在的な不登校児の早期発見と対応に努める。
	A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 全体アンケート「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童等の実態に応じて、適切な支援をしている。」 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上	① 教職員が異文化への広い知識を率先して身に付け、人権感覚や国際感覚を身につける。 ② 関係機関と連携し、児童の実態に応じて日本語指導の時間を設ける。	B 【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は96%であり、目標を上回った。 【次年度の方針】 ① 教職員が異文化への広い知識を率先して身に付け、人権感覚や国際感覚を身につける。 ② 関係機関と連携し、児童の実態に応じて日本語指導の時間を設ける。

A17 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 全体アンケート「私は、今の学校が好きです。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上	① 児童会を中心としたあいさつ運動や心ぽかぽか運動を実施することで、児童が互いに認め合う学級づくり・学校づくりを行う。 ② 授業の中で、教師も児童も互いの意見を認め合い、励まし合う環境づくりを行う。	【達成状況】 ・児童の肯定的回答は93%であり、目標を上回った。 【次年度の方針】 ① 児童会を中心としたなかよし集会や心ぽかぽか運動を実施することで、児童が互いに認め合う学級づくり・学校づくりを行う。 ② 授業の中で、教師も児童も互いの意見や価値観を認め合い、励まし合う環境づくりを行う。
A18 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 全体アンケート「先生方の授業は分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる。」 ⇒児童の肯定的回答 85%以上	① 宇都宮モデルを実践しつつICT機器などの活用を充実させる。 ② 児童の実態を把握し、習熟度別学習やT・T（チーム・ティーチング）、かがやきルームでの学習など多様な指導方法を活用し、個に応じた指導の充実を図る。 ③ 各学年の担任が協力して教材研究を進め、授業形態の工夫をしながら、分かる授業の実践に努める。	【達成状況】 ・児童の肯定的回答は97%であり、目標を上回った。 【次年度の方針】 ① 宇都宮モデルを実践しつつICT機器などの活用を充実させる。 ② 児童の実態を把握し、習熟度別学習やT・T（チーム・ティーチング）、かがやきルームでの学習など多様な指導方法を活用し、個に応じた指導の充実を図る。 ③ 各学年の担任が協力して教材研究を進め、授業形態の工夫をしながら、分かる授業の実践に努める。
A19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」 ⇒教職員の肯定的回答 80%以上	① 校務分掌に基づいた職員間の連携や、多様なスタッフの専門性を発揮する場の設定などを通して、チーム力の向上を図る。 ② 子供の見守りや行事のボランティア等、地域の方々と連携・協力し、「チームとしての学校」の実現を目指す。	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は、96%であり、目標を上回った。 【次年度の方針】 ① 校務分掌に基づいた職員間の連携や、多様なスタッフの専門性を発揮する場の設定などを通して、チーム力の向上を図る。 ② 子供の見守りや行事のボランティア等、地域の方々と連携・協力し、「チームとしての学校」の実現を目指す。
A20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」 ⇒教職員の肯定的回答 80%以上	① ワーク・ライフ・バランスの視点から業務内容を見直し、長時間労働を削減するために、自分にできることを意識して業務に取り組めるようにする。 ② 毎月の定時退勤日を設定し、退勤時刻を意識した働き方や、計画的に業務に取り組むことに努める。 ③ 学校行事の精選や、ICTを活用した打合せなどを推進して、業務の効率化を図る。	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は、100%であり、目標を上回った。 【次年度の方針】 ① ワーク・ライフ・バランスの視点から業務内容を見直し、自分にできることを意識して業務に取り組めるようにする。 ② 毎月の定時退勤日を設定し、退勤時刻を意識した働き方や、計画的に業務に取り組むことに努める。 ③ 学校行事の精選や、ICTを活用した情報共有などを推進して、業務の効率化を図る。
A21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取り組みを行っている。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取り組みを行っている。」 ⇒教職員の肯定的回答 80%以上	① 地域学校園全体研修会の機会を活用し、部会ごとの情報交換を通して、各校が連携・協力して指導にあたる。 ② 地域学校園内の児童生徒の課題を共有し、あいさつ運動など共通の具体策を同一步調で行う。	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は、88%であり、目標を上回った。 【次年度の方針】 ① 地域学校園全体研修会の機会を活用し部会ごとの情報交換を通して、各校が連携・協力して指導にあたる。 ② 地域学校園内の児童生徒の課題を共有し、あいさつ運動など共通の具体策を同一步調で行う。

	A22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」 ⇒教職員、保護者、地域の肯定的回答 80%以上	① 本校の特色である、「稲作活動」や「ブルーベリー栽培」などを継続して、地域と共に活気あふれる学校づくりに努める。 ② 「花の宅急便」や「感謝の集い」などを通して、地域の方々とふれ合いをもち感謝する気持ちを醸成する。	B	【達成状況】 ・肯定的回答の割合は、教職員 96%、保護者 87%、地域住民 100%と全ての対象で目標を上回った。 【次年度の方針】 ① 本校の特色である、「稲作活動」や「ブルーベリー栽培」などを継続して、地域と共に活気あふれる学校づくりに努める。 ② 「感謝の集い」などを通して、地域の方々とふれ合う機会をもち感謝する気持ちを醸成する。
	A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい児童の育成に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」 ⇒教職員、保護者、地域の肯定的回答 80%以上	① 各種ボランティアの募集をしたり、ボランティアの活動を、たよりやホームページ等で紹介したりして、地域の方々が学校の教育活動に広く参画できるようにする。 ② 「れんげまつり」、「国本地区たこあげ大会」等の地域行事への参加や、「カルビー見学」、「N T T ネットトラブル教室」等の企業の協力のある学習を通して、児童の社会性を育てる。	B	【達成状況】 ・肯定的回答の割合は、教職員 96%、保護者 87%、地域住民 100%と全ての対象で目標を上回った。 【次年度の方針】 ① 各種ボランティアの募集をしたり、ボランティアの活動を、たよりやホームページ等で紹介したりして、地域の方々が学校の教育活動に広く参画できるようにする。 ② 「れんげまつり」、「国本地区たこあげ大会」等の地域行事への参加や、「カルビー見学」、「N T T ネットトラブル教室」等の企業の協力のある学習を通して、児童の社会性を育てる。
	A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」 ⇒教職員、保護者、地域の肯定的回答 80%以上	① 職員による月 1 回校内外の安全点検を確実にし、事故の未然防止に努めていく。 ② 異状を発見した際には、迅速に担当者への連絡を欠かさず行い、修理等の対応をしていく。	A	【達成状況】 ・肯定的回答の割合は、教職員 100%、保護者 92%、地域 100%とすべての対象で目標を上回った。 【次年度の方針】 ① 職員による月 1 回校内外の安全点検を確実にし、事故の未然防止に努めていく。 ② 異状を発見した際には、迅速に担当者への連絡を欠かさず行い、修理等の対応をしていく。 ③ けがを防ぐために、用具の使い方や遊び方の確認をする。
	A25 学校は、学習に必要な I C T 機器や図書等を整えている。 【数値指標】 全体アンケート「児童はパソコンや図書等を学習に活用している。」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 計画的に新聞や図書を購入して、必要な図書の充実を図る。 ② I C T 支援員と連携して教材の開発や情報交換をする。 ③ 効果的な活用の仕方について情報共有する場を設定する。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答は、93%であり、目標を上回った。 【次年度の方針】 ① 計画的に新聞や図書を購入して、必要な図書の充実を図る。 ② I C T 支援員と連携して教材の開発や情報交換をする。 ③ 効果的な活用の仕方について情報共有する場を設定する。
本校の特色・課題等	B2 学校は、栽培・緑化活動を通して、自然体験や体験的な学習を推進している。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、栽培・緑化活動を行い、自然に親しんでいる」 ⇒地域の肯定的回答 80%以上	① 「緑の少年団」の活動や魅力ある学校づくり地域協議会との連携を通して、学校環境緑化活動を推進する。 ② 各学年で取り組んでいる学校花壇での花の栽培や、環境委員会による来賓玄関前の栽培活動を引き続き推進する。	B	【達成状況】 ・地域の肯定的回答は 100%であり、目標を上回った。 【次年度の方針】 ① 「緑の少年団」の活動や魅力ある学校づくり地域協議会との連携を通して、学校環境緑化活動を推進する。 ② 各学年で取り組んでいる学校花壇での花の栽培や、環境委員会による来賓玄関前の栽培活動を引き続き推進する。

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・評価に関する数値指標は27項目中25項目で達成されており、概ね良好な状況である。
- 「A4 時と場に応じたあいさつ」に関しては、教職員の肯定的回答が95%から80%に下がった。児童が率先してあいさつできるように、児童会を中心としたあいさつ運動を継続して行い、規範意識を高め、家庭・地域への啓発も意図的に行う。教員の率先垂範により、自然にあいさつをしたり返したりする習慣を身に付けさせる。あいさつ強化週間を設定し、自分のあいさつへの取組を振り返る機会を設け、意識の啓発を図る。
- ・「A8 英語を使ったコミュニケーション」に関しては、教職員の肯定的回答が90%から80%に下がった。ALTと教職員が協力し、児童に興味をもたせながら児童同士のコミュニケーションを図れるような授業を展開したり、ALTによる昼休みの読み聞かせを計画したりして、英語を使ったコミュニケーションの場の充実を図る。
- ・「A9 宇都宮の良さ」に関しては、教職員の肯定的回答が80%で目標と同等であった。学校行事や地域の行事、また、国本地域や宇都宮市の良さに関連する学習内容を積極的に扱うとともに、お昼の校内放送で、宇都宮市の歴史や良さ、魅力について放送していく。また、宇都宮市に関する資料を集め、図書館に「宇都宮コーナー」を設定し、児童に宇都宮のよさを知らせる。
- ・「A12 持続可能な社会」に関しては、児童の肯定的回答が88%で数値指標に達したが、教職員の肯定的回答は71%で数値指標に達することができなかった。みどり活動や稲作活動等が、「持続可能な社会」につながることを教職員が共通理解して児童の発達段階に応じた指導に取り組む。
- ・「A14 いじめ対策」に関しては、児童の肯定的回答は、98%で数値指標を上回ったが、保護者の肯定的回答が82%から76%に下がった。子供の実態把握と、いじめ防止・早期発見に努め、適切な対処をするとともに、いじめ事案発生の際には、チームで対応し、保護者への連絡を密にするとともに、いじめ撲滅への具体的な学校での取組やいじめ防止活動について保護者に周知する。
- 「A21 小中一貫教育・地域学校園」に関しては、教職員の肯定的回答が88%であり目標を上回ったが、昨年度と比較すると下がった。地域学校園の各部会の連携・協力を継続するとともに、地域学校園内の児童生徒の課題を共有し、あいさつ運動など共通の具体策を同歩調で行うことで、小中一貫教育・地域学校園の取組の充実を図る。
- ・「B1 家庭学習の習慣化」に関しては、教職員の肯定的回答が95%から96%に上回ったが、保護者の肯定的回答が81%から80%に下がった。「家庭学習のヒント集」を配付するとともに、スタンダードダイアリーを活用し家庭学習の習慣化を図る。また、学級の懇談会等で家庭学習の意義を伝えたり「学習指導だより」を発行したりすることで保護者の理解と協力を得られるようにする。

7 学校関係者評価

- ・コロナ感染者増加の中困難であると思うが、体験学習が出来る様になれば良い。
- ・教職員の皆様の児童に対する深い愛情を込めたご指導に感謝する。自然体験を通して、地域との関わりを多く持ってほしい。地域の歴史や文化を理解し活動してほしい。
- ・子供たちも落ち着いた学校生活を送っている。先生方も一生懸命接している様子が見られる。地域の皆さんのとの関わりも濃いように思う。
- ・教職員、児童とも肯定的な回答割合が多くとても素晴らしく思う。地域の一員として、これからも協力したい。
- ・コロナ禍の環境で、教育目標を達成することは大変だと思うが、児童のためにこれからもよろしくお願いしたい。
- ・あいさつについては、本当によくできている。登校時また来校時にもあいさつがきちんとかえってきて気持ちがいい。あいさつは人付き合いの基本だと感じるので、これからも挨拶の指導を継続してほしい。
- ・児童のあいさつができていないとの声が上がっている。全員があいさつをできるように指導してほしい。高学年のほうがあいさつをしてくれる印象がある。
- ・質問項目に対して回答率が下がったものについて原因を把握するとともに今後の手立てについてより具体的に示すと良い。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- 全体としてよい評価をいただいたが、学校の自己評価や児童・保護者・地域の皆様から寄せられた貴重な意見を真摯に受け止め、次年度の方策について具体的に検討していきたい。
- 【学校運営】
- ・地域の教育力を生かした「稲作活動」や「ブルーベリー栽培」の活動、ボランティアによる「読み聞かせ」の活動など、特色ある学校づくりを展開することができた。各種ボランティアの募集をして、地域の方々が学校の教育活動に広く参画できるようにする。
- ・学校行事の精選やICT機器の活用により業務の効率化を図るとともに、ワーク・ライフ・バランスの視点から業務内容を見直し、教職員一人一人が力を発揮できる環境づくりをする。

【学習指導】

- ・「聞くこと」がまず学習の基本と考え、「聞き方の約束」を提示し、しっかり聞き、考えるという基礎・基本をしっかり身につけさせていく。また、適切な声の大きさと話せるように、統一した「声のものさし」を掲示し、適切な音量で話せるようにさせていきたい。
- ・給食時の校内放送で、宇都宮市の歴史や良さ、魅力について伝えていくことを継続していき、さらに学校図書館に「宇都宮コーナー」を設けることで宇都宮市について知る機会を増やしていく。
- ・家庭学習について、「家庭学習のヒント集」をもとに自主学習を行えるように児童に指導したり、宿題の内容や量を定期的に教職員で確認しあったりすることで、児童が家庭でも進んで学習に取り組めるようにする。

【児童・生徒指導】

- ・全職員が、あいさつの仕方や時間の管理、廊下の歩き方などについて共通の意識で指導するとともに、生活目標への取組について児童が振り返る時間を設けて意識の啓発を図る。
- ・人権を大切にすることを醸成し、思いやりの態度を育成する。また、定期的なアンケート調査や教育相談を実施して児童の実態把握に取り組み、児童の気持ちに寄り添ったり、保護者との連携を図ったりすることを継続する。
- ・「こころぽかぽか運動」を継続したり、道徳科の授業で「親切、思いやり」の価値項目を重点指導したりすることで、感謝の心を育成するとともに、家庭で保護者とともにできる取組を始める。
- ・学級活動や児童会活動の充実を図ったり、キャリアパスポートを活用し自己の目標の設定・振り返りをしたりする活動を通して、自ら考え、正しく判断する力を育成する。
- ・地域学校園全体研修会の機会を活用して、部会ごとに地域学校園内の児童生徒の課題を共有し、あいさつ運動など共通の具体策を行ったり、他校での成功事例を取り入れたりする。

【健康・体力】

- ・陸上競技大会などの市の大会への参加や水泳検定、なわとび検定の実施を通して各自が目標をもって運動に取り組み、体力の向上を図る。
- ・給食後の歯磨きや長期休業中の歯磨きカレンダーを通して、虫歯予防への意識の向上を図る。
- ・うがい、手洗い、マスクの着用、換気などコロナ感染症拡大防止に引き続き取り組む。
- ・給食時に献立についての校内放送をしたり、栄養士による給食指導を行ったりすることで、食に関する関心を高めていく。
- ・計画的に避難訓練を実施し、非常時の避難が円滑にできる救急・連絡体制の整備に努める。
- ・学校内の点検や修理を実施し、消防署・スクールサポーター・交通指導員・登下校見守りボランティアなどとの連携・協力を通し、安全な学校づくりを目指す。